

宮本茶園 宮本透

昨年末の出来事でした。その日は相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会実行委員会の忘年会で、アミーユの橋本さんと会場に向かいました。橋本さんは歩くのが早く、私は離されないよう必死に後を追いましたが15m程の距離が開きました。国道20号の横断歩道で橋本さんが待ってくれると期待しましたが、私の事など全く気にかけずに信号ボタンを押すのです。この信号は再び青になるまで時間がかかるので、一緒に渡ろうと全力疾走しました。横断歩道を渡り切って追いついたのですが、息が切れて歩く事が出来なくなりました。

正月明けの上野原市立病院受診日、主治医の先生に「お変わりありませんか？」と尋ねられました。「おかげ様で元気に野良仕事しています。気になると言えば・・・」と忘年会での出来事を伝えました。先生の顔が厳しくなり「それはよくありませんね。狭心症の疑いがあるので精密検査をしましょう」と言われます。40歳頃仕事のストレスから狭心症を患い3年程治療を受けた事がありますが、完治したと思っていたので驚きました。先日久し振りに街へ出向いて、東海大学医学部付属八王子病院で精密検査を受けました。医者通いと服薬がめっきり増えた今日この頃、体をいたわりながら野良仕事を楽しまたいものです。

・冬の茶仕事

県農協茶業センターから足柄茶生産農家に配布される「茶園管理ごよみ」は3月～11月の病害虫防除・整枝・施肥の実施時期・作業内容が詳しく記載されていますが、12月～2月の作業については触れていません。一般的に冬の茶仕事はお休みと思われがちですが、茶農家は寒空の下で土作りに励みます。宮本茶園では秋から続けていた大豆殻の畝間敷き込みを正月明けに終わらせ、落葉や茅場のススキを茶園に運んでいます。上岩茶園の西側は傾斜地の草原で、ススキの穂が寒風になびいています。地主さんの許可を得て刈り取り茶園に敷き込みましたが、これをご縁に今秋は茅場に使わせていただく事を期待しています。今年の冬は雪がよく降りました。一面銀世界の茶畑景観は素敵ですが、雪が溶けた後は積雪の重みで枝が沈み株表面は穴凹だらけです。毎日黙々と沈んだ枝を起こしては株表面を整え、併せて葉層下の小枝に絡んだ古葉や枯れた茎を根気よく取り除いています。

2月1日に南足柄市文化会館で第56回茶業振興大会が開催されました。茶園共進会の褒賞授与式の結果ですが大洞茶園は3等賞でした。2022年夏から私が管理を担い1月より貸借権を設定した茶園ですが、まだまだ努力が足りないようです。古田島農林高校で足柄茶の授業をしていた頃に生徒たちと茶摘みをさせていただいた開成町の米茶茶園は2等賞、茶品評会でも上位入賞しています。苗の植え付けをしている時期から知る米茶茶園の素晴らしい成績は20年間丹精込めた茶園管理の賜物でしょう。茶来未が製品加工を手掛ける米茶開成営農組合の快晴茶と藤野茶業部の佐野川茶、切磋琢磨しあう関係を築きたいと思いました。研修会では静岡県立大学の中村順行先生が「このままでは足柄茶はなくなる～生き残り戦略は～」という刺激的なテーマで講演されました。中山間地域に点在する足柄茶産地はどこも農家の高齢化と後継者不足が深刻な問題となっています。先生は様々な取り組みを提言してくださいましたが、藤野茶業部が実践してきた活動と重なる事例が多くあって励みになりました。



・ちーむゴエモンの活動（2024年 醤油仕込み・醤油搾り・味噌仕込み）

ちーむゴエモンで醤油仕込みに取り組むグループが多くなり、昨年末に各グループ代表がヤギ苑に集まって麴室使用の日程調整会議が開かれました。1月～3月のヤギ苑は毎週どこかのチームが醤油麴仕込みを行う過密日程で、佐野川チームは1月18日～21日が割り振られました。私にとって5回目の醤油麴仕込み、これまでは高橋・高村両師匠に頼り切りだったので今年は出来る限り一人で作業をこなすよう心掛けました。15日から小麦の焙煎や軍刀利神社の名水汲みと準備を進め、当日を迎えました。浸漬大豆を蒸煮したところで両師匠の手助け、引き込み作業を指導してもらいました。3日間の品温管理と2回の手入れは何とか自力でこなし4日目の出麴で再び手助け、上岩に塩切麴を搬送してはっちゃんと醪の手入れを続けています。佐野川チームの醤油仕込み・搾りが無事終了、23日よりゴエモン味噌の麴仕込みです。ゴエモンLINEグループに味噌麴仕込み日程を伝え参加者を募ったところ、元佐野川チームの尾崎

さんが参加してくれました。2020年初めて玄米麴を仕込んだ時、一緒に作業した心強い仲間です。16kgの玄米を麴に仕込み、今年もゴエモン仲間に味噌作りを楽しんでもらいました。野良仕事に追われる私にとって冬季の醤油・味噌麴仕込みはかけがえのない趣味、満喫しました！

2月28日長野県より岩崎先生がお越しくださり醤油搾り講習会が開催されました。秦野や茅ヶ崎からの参加者もあり、醤油作りを趣味にする同好の士が各地からヤギ苑に集まりました。講義では道具の由来や使い方を丁寧に解説していただきました。「普段何気なく使っている柄杓・桶・樽等、用途によって形状や材質が異なる製品が多いので使う目的に合わせて道具を購入しなさい。自分が使いやすい道具を入手するには製造者に対して消費者ではなく利用者の関係になる事が大切です」と話されます。実習では醪の溶き方・濾袋や槽の使い方等、理にかなった無駄がない作業のコツを教えていただきました。昼食は高橋師の奥様と尾崎さんが用意してくださり、搾りたて生醤油と手作り味噌をお土産にいただきました。研修成果を実践する来年の醤油搾り、今から楽しみです！



・冬の雑穀畑・花卉畑

雑穀街道普及会が閉会解散したので上岩雑穀畑を訪ねる方はほとんどありませんが、1月28日自給農耕ゼミ(佐野川)に参加された皆さんが麦踏みをしてくださいました。作業後は干木良のヤギ苑に出向いて醤油麴・味噌麴の仕込み工程を見学しました。「種から胃袋まで」農耕文化基本複合を实践するちーむゴエモン活動、皆さん興味を持たれたようです。野良仕事では近所から剪定枝をいただき、雑穀畑に運んで燃やしています。のんびり焚火をしながら2年間の雑穀栽培講習会を振り返りました。毎月一回上岩で街に住む皆さんに播種・除草・収穫等の作業体験していただいた事はとても重要な活動でした。しかし1反の雑穀畑は月1回数時間の作業ではとても管理できません。夏の草刈り・秋に収穫した作物の調整作業・冬の土作りと、様々な仕事があります。どれも本来楽しい野良仕事なのですが、無理がたたり2022年秋には体調を崩し私一人で担う事は正直言って負担でした。今後は雑穀普及活動を担うXさんに雑穀栽培講習会の企画・運営を託し、私は野良仕事に専念したいと思います。

花卉畑でも剪定枝を運んで燃やし、木灰をすき込んで土作りをしています。2020年から続ける相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会の会場飾花・献花用の花卉栽培ですが、昨年は体調不良で播種が遅れ十分な数の生花を用意する事が出来ませんでした。今年はきちんと準備ができるだろうかと後ろ向きの思考になっていたのですが、1月下旬群馬県高崎市の県立公園「群馬の森」にある朝鮮人労働者追悼碑が県の行政代執行によって破壊・撤去されるという衝撃的な出来事がありました。YouTubeの動画には集まった市民を罵る右翼や抗議行動を弾圧する機動隊が映し出され、怒りがこみ上げてきます。折しもゴエモン文庫にあった「教育と愛国」(岩波書店)を読んだ直後で、社会科教科書の歴史改ざん問題・大阪府での「日の丸・君が代」強制の実態等、学校現場への理不尽な政治圧力をこのニュースに重ね合わせました。日本の犯したアジア侵略戦争の歴史を学び朝鮮半島より強制連行された戦時徴用工の過酷な体験を直接聞いた者として、相模湖・ダム建設殉職者合同追悼会の大切さを再確認しました。歴史の真実をねじ曲げる人たちと闘う手段として、花卉栽培を続けなければいけないと心に誓いました。



※佐野川での雑穀栽培に興味のある方は宮本透(みやもととおる)

携帯：090-2205-8476 e-mail：kwangjuu1980@yahoo.co.jp へご連絡ください。